

学習指導案の形式（例） 小学校図画工作科

第○学年○組 図画工作科 学習指導案

令和○年○月○日（○）第○校時 ○○教室 指導者 ○○ ○○

1 題材名 ○○○○○○○○
 教材名 「○○○○○○○」（出版社名、学年）←※必要な場合

◇一つの題材の内容や学習のポイントを押さえた名称を書く。名称の工夫として、児童がわくわくしながら表現や鑑賞の活動ができるような名称にする。

- 2 題材の目標
- (1) 「知識及び技能」に関する目標（例：～できる。～分かる。～表す。）
 - (2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する目標（例：～できる。～考える。～広げる。）
 - (3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標（例：～しようとする。）

◇学習指導要領の目標及び内容（指導事項）を踏まえて設定する。
 ◇(1)の「知識」と「技能」、(2)の「発想や構想」と「鑑賞」をまとめて記述してもよいが、ねらいを明確にするために、(1)を「・」の箇条書きで「知識」と「技能」に分けたり、(2)を同じく「発想や構想」と「鑑賞」に分けたりして記述する。
 ◇児童の立場で書く。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・例：～している。	・例：～している。	・例：～しようとしている。

◇「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準は、当該題材で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項の文末を「～している。」として作成する。特に「思考・判断・表現」には、〔共通事項〕イも入るので、「自分のイメージをもちながら」等の表記を「発想や構想」と「鑑賞」の評価規準に入れ、それぞれを評価する際一緒に評価する。
 ◇「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、観点別に学習評価するものだけを、題材に即して「表現する活動」や「鑑賞する活動」を具体的に表記する。例えば低学年の場合「形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う」は個人内評価のため、題材の目標に入れてもよいが観点別評価には入れないようにする。文末を「～しようとしている」として作成する。

4 指導と評価の計画（全○時間）

次	時	ねらい・学習活動	評価の観点			評価規準及び評価方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に	
			知識 技能	発想や構想 鑑賞	取り組む態度	
一	1	○例：～について考える。工夫して表す。	○		○	[観点] (方法) ○例：～している。 ～しようとしている。
	2	◇ねらいを明確にして書く。 ◇児童の立場で書く。	◇「知識」と「技能」、「発想や構想」と「鑑賞」をそれぞれ一つの枠で示してもよい。			◇「3 題材の評価規準」の観点をバランスよく位置付ける。

5 指導上の立場

- 題材観
- 児童観
- 指導観
- 研究主題との関連

◇指導者の立場で書く。

◇題材観…本題材で身に付けさせたい資質・能力、題材の内容や題材を取り上げる意義、題材・教材と児童の関係等を書く。
 ◇児童観…本題材に関する興味・関心、資質・能力の状況、既習事項の定着度等について書く。本題材において目指す児童の姿等について書く。
 ◇指導観…指導・支援の重点、学習形態、その他の配慮事項等、児童のよさや可能性を生かすような指導方法の工夫等を書く。
 ◇研究主題との関連…研究主題の説明を簡潔に書き、研究主題と授業における指導方法の工夫等との関連等を書く。

6 本時案（第○次 第○時）

(1) 本時の目標

例：～することができる。～しようとする。

(2) 展 開

◇「2 題材の目標」「4 指導と評価の計画」との整合を図る。
 ◇本時の評価規準との整合を図る。
 ◇児童の立場で書く。

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1	○	
◇児童の立場で書く。	◇指導者の立場で書く。	◇児童の立場で書く。
2 (1) ◇活動に順序がある場合は、(1)(2)で書く。	<p>めあて</p> <p>◇児童が、何をどのように学ぶのかを明確にして本時のめあてを書く。</p>	
(2) 例：～について話し合う。	○例：～することで、～できるようにする。	
◇導入・展開・終末の学習過程に沿って、児童の学習活動を具体的に書く。 ◇授業展開は「岡山型学習指導のスタンダード（授業5）」を参考にする。	<p>◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に学習を進めるための手だて ・児童が対話的に学習を進めるための手だて ・児童が学習を深めるための手だて ・児童一人一人の学習状況に応じた手だて ・予想される児童の反応 ・資料提示のタイミングや方法 ・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 等 <p>◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。</p> <p>◇「努力を要する」状況（C）と判断される児童への手だてを書く。</p>	<p>◇本時の目標と整合した評価規準を具体的に書く。抽象的ではなく、実際可能なレベルで具体化する。</p> <p>◇評価の場面は1、2箇所に絞る。</p> <p>◇評価規準に合わせて、評価の観点を明記する。</p> <p>◇評価方法を具体的に書く。</p>
3		○例：～している。 [評価の観点] (評価方法)
4	○	◇評価方法の例 ・発言の内容 ・行動の観察 ・ノート、ワークシートの記述 等
5	○	
	<p>まとめ</p> <p>◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、本時のめあてと対応したまとめを書く。</p> <p>◇学習の成果が自覚できる振り返りの視点を明確にして書く。振り返りの視点は、『岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善「一歩先へ！」』を参考にする。</p>	

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する児童の姿 例：～している。

◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう児童の姿について、想定される児童の発言や記述例等を取り入れながら具体的に書く。なお、ここに挙げる具体的な児童の姿が、どのような指導によって表れるのか等、指導と評価のつながりを意識して書く。